

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】 専門演習 II		
担当者(Instructors)	梶浦 恭子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)

小学校や園では、どのような環境が児童や幼児を取り巻き、一日の生活（遊びと教育）が流れ、学びがあるのか。その全体像をつかみ、疑問としたテーマ追究のために仮説を立て実体験（実習、演習）を基盤に学ぶ。問題解決のためにキーワードの意味調べから始まる。設定理由と探る必要性を整理する。一研究方法として具体的な体験事例を取りあげて考察するというように進む。仲間と交流し、新たな視点や工夫を生み出せる、協同で学ぶ面白さを知る。「テーマ設定と研究方法」を見つけ研究・追究を楽しんで行く。

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	①個々に研究の進行状況を定期的にプレゼンテーションする。②意見交換（ディスカッション）の時間を持つことで、③互いの知見が広がりグループワークになる。新たな研究の視点やヒントを得て研究の問題解決に役立てる。④実習体験は知見を広げられる。さらに事例を先行研究に沿って積極的に書く。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 研究テーマの(仮)決定 ステップ1	オリエンテーション（授業説明、注意事項） 研究テーマを決定し研究の結論とその方向性（仮説）をゼミ内交流会（テーマを自分のコトバにできる）	□
第2回	論文の作成の5ステップ確認と文献検索調べ・整理（1） ステップ2	各自の研究テーマに沿って先行文献を調べる 内容の整理・まとめ・個別に発表し整理	□
第3回	文献検索調べ・整理（2）	グループの研究テーマに沿って先行文献を調べる 内容の整理・他者のコトバまとめ・グループ内で発表して整理	□
第4回	文献検索調べ・整理・まとめに向けて（3）	研究テーマに沿って先行文献を調べた他者のコトバ内容をグループでゼミ内発表、次の課題へ：調査か、事例作成か、作品か	□
第5回	ステップ3 先行文献からわかったこと（1） キーワードを自分のコトバにする	未解決の課題説明 キーワードの詳細な捉えを自分のコトバで説明する	□
第6回	先行文献からわかったこと（2） 各自の課題が解決できる文献の概要整理と自分のコトバ	引用文献1つ目（概要にする） と自分のコトバでレポート記述する	□
第7回	先行文献からわかったこと（3） 各自の課題の整理	引用文献2つ目、3つ目（概要にする） と自分のコトバに整理し発表する（担当教員に向けて）	□
第8回	調査方法の決定、倫理的配慮の理解	調査するにあたり倫理的配慮の説明・学び 調査対象・具体的な調査方法の決定	□
第9回	文献調査、および観察調査 作品製作と先行研究論文	調査対象・調査の手続き・具体的な調査方法の決定 作品製作と先行研究論文からのヒントや作品のための内容	□
第10回	結果の【記述方法】	文献、観察、先行研究による各調査を参考にした 結果の【記述方法】	□
第11回	後期のゼミ内発表（1）前半の部	研究経過報告のまとめ中間報告準備と、今後の進め方の確認する	□
第12回	後期のゼミ内発表（2）後半のグループの部	研究経過報告のまとめ中間報告準備と、今後の進め方の確認をゼミ全体で話し合う	□
第13回	後期のゼミ内発表（3）研究経過報告のまとめ中間報告準備と、今後の進め方の確認する	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い小論文の作成や作品製作、発表の準備を行う。	□
第14回	研究発表(研究成果3年生の後期ゼミ発表会)	途中過程ではあるが、研究の成果である小論文もしくは製作作品を発表し質疑応答を行う	□

第15回	4年生卒業論文発表会参加（自己テーマ探究・再考・自己省察・テーマ決定を4年生ガイダンスまでに行う）	卒業論文発表会において興味関心の高い論文の発表内容を聴く、質疑応答、意見交流、●レポート整理・提出	□
------	---	---	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

研究に必要なキーワード（3つ以上）の意味調べと先行研究論文の要約の準備（3～5の読み解き）は前期に提出する（初等）。研究を深めるための個別の対応は繰り返し行う。前期分の計画遂行は4年生までの四分の一であり、毎時のディスカッションで得られた知見のまとめは直ぐに取りかかる（2時間）。作品であるならば、後期までの仕上げを見通し、文献検索も怠らず行うこと。作品の成果が向上するために行動する意味を見つけるためでもある。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

テーマ設定が一番の課題である。できるまで随時面談（個別、小集団）する。キーワード、論文検索、作品製作進捗を毎コマ行う。課題への確認を授業後にする。提出要約の概要と気づき・感想・添削を繰り返す（フィードバック）。なお、保育・教育教材のための作品の場合も同様、スケジュール計画案を提示し課題とフィードバックをする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◇ 2018子ども発達DP1	幼稚園教育要領、学校指導要領、教育基本法等に示された教育の目的や基本の内容を理解する基礎的な資源能力を身に着けるために、興味関心のある自己課題を探究心を持ち、知識力を身につけ論文作成・記述ができるか
	◆ 2018子ども発達DP2	興味関心のある自己課題を探究するにあたり、自らを高め他者を受容する感覚とその意識を持った生活態度と研究姿勢で、資料検索や収集後の記述ができ説明ができるか
	◇ 2018子ども発達DP3	保育現場で直面する幼児の発達や関係性における多様な問題・課題に対応でき、幼児理解上に立った実践事例の記述報告ができるか

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

レポート課題 「自分の研究テーマとは何か(20)」「①明確な動機はどこにあったか(10)、②先行研究がいくつあるか(20)、③間の形式で示すことができているか(10)」「調査していること、事例について、作品について(40)」

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]	978-4766425772
2	最新版 大学生のためのレポート・論文術	978-4816350573
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	保育内容 領域 表現 日々わくわくを生きる子どもの表現	978-4907270278
2	幼児のからだところを育てる運動遊び一元気に育てちびっ子たち	978-4764411326
3	幼児のからだを測る・知る一測定の留意点と正しい評価法	978-4764411241
4		
5		